

# 平成23年岐阜県観光入込客統計調査

平成24年9月

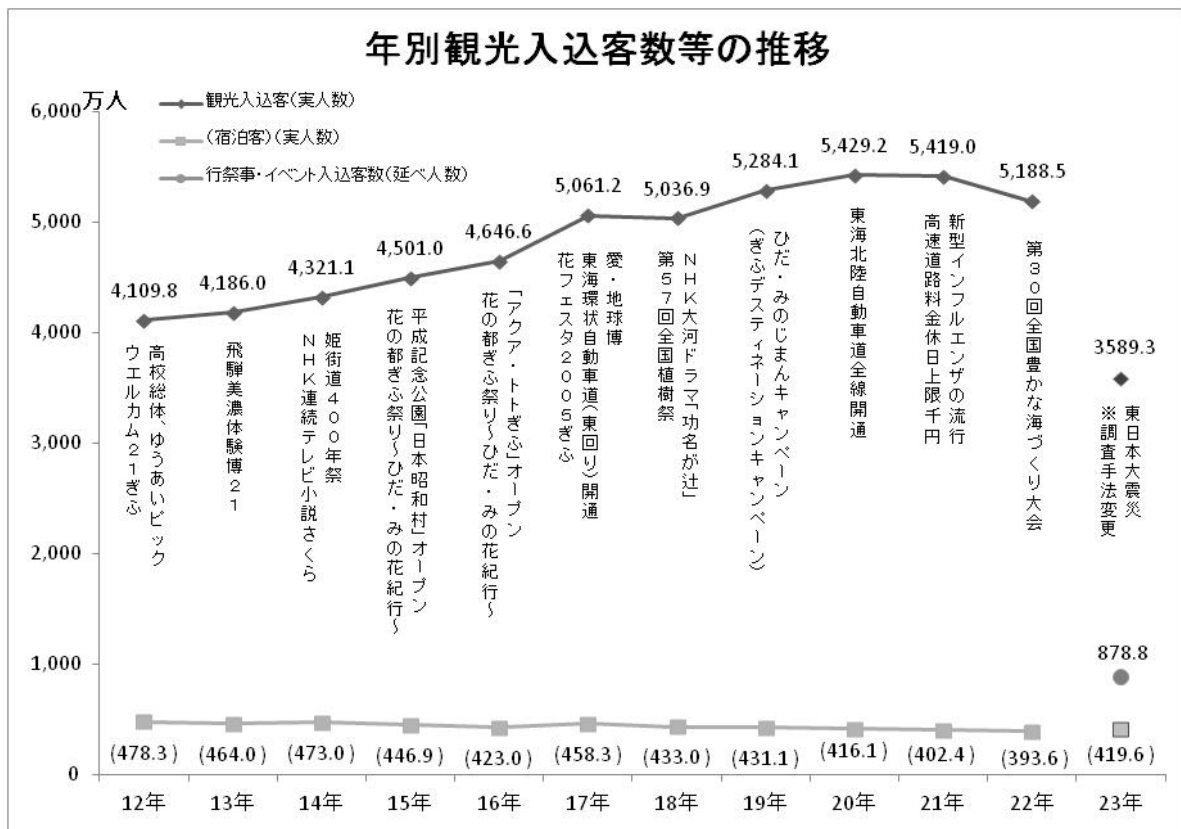
観光課

# 1 観光入込客数

## (1) 県全体の動向

平成23年の観光入込客数（実人数）は、3月に発生した東日本大震災直後に旅行の自粛ムードの高まり、イベントの中止等の影響があったものの、官民一体による積極的な誘客キャンペーン等を実施した結果、日帰り客数が3,169万7千人、宿泊客数が419万6千人で、全体では3,589万3千人となった。

※平成23年分調査より、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」を導入しており、前年までの岐阜県観光レクリエーション動態調査とは調査手法が異なるため、比較はできない。



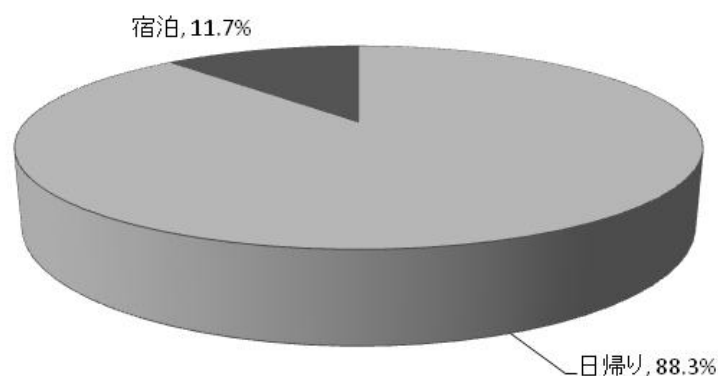
※平成22年までは「岐阜県観光レクリエーション動態調査」結果より

区 分		平成23年
観光入込客数（実人数）	全 体	3,589万3千人
	日 帰 り	3,169万7千人
	宿 泊	419万6千人
行祭事・イベント入込客数（延べ人数）		878万8千人

### ① 日帰り・宿泊別観光入込客数

平成23年の観光入込客数は3,589万3千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は3,169万7千人、宿泊客は419万6千人、日帰り客が全体の88.3%を占めている。(図1)

図1



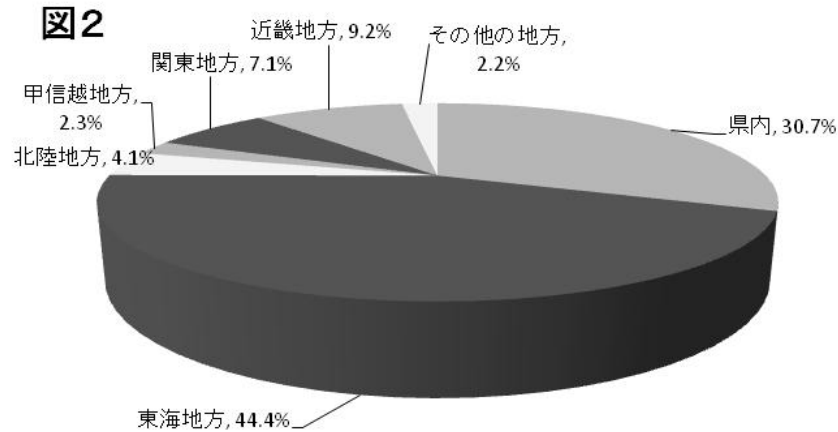
圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も高く(構成比96.1%)、中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客51.1%、宿泊客48.9%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客419万6千人のうち236万2千人と全体の56.3%を占めた。

四半期別に見ると、日帰り客数については、1～3月が707万2千人、4～6月が791万6千人、7～9月が794万1千人、10～12月が876万7千人で、宿泊客数については、1～3月が97万5千人、4～6月が83万8千人、7～9月が132万2千人、10～12月が106万1千人であった。特に夏休みシーズンの7～9月に宿泊客が多いが、年間通じてコンスタントに観光客が訪れている。

### ② 居住地別観光入込客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は1,102万3千人(構成比30.7%)、県外客は2,487万人(構成比69.3%)と、県外客が多くを占めた。特に飛騨圏域では県外客の割合が81.4%と高い。(図2)



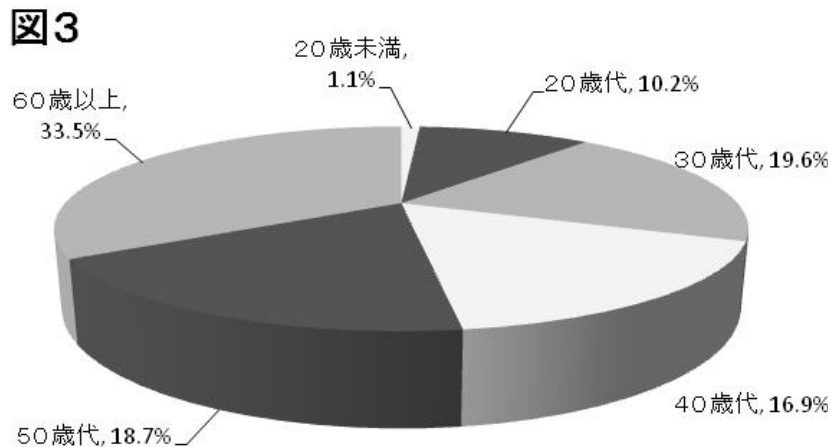
県全体では、県外客のうち **64.1%**が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。

圏域別で見ると、東海地方からの観光客の割合は、西濃圏域、岐阜圏域、中濃圏域、東濃圏域の順に高い。一方、飛騨圏域は他圏域よりやや低く、関東地方からの観光客の割合と同程度である。

### ③ 男女別・年齢別観光入込客数

男女別で見ると、男性が2,082万3千人（構成比 **58.0%**）、女性は1,507万人（構成比 **42.0%**）と男性が多かった。

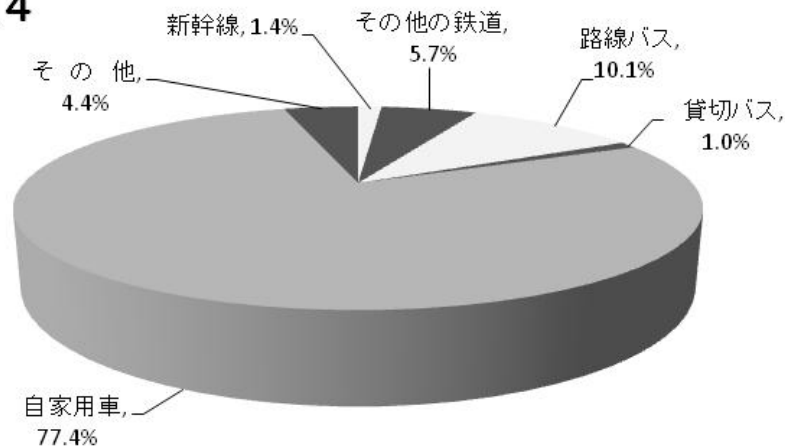
年齢別では、60歳以上が **33.5%**と最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている。（図3）



### ④ 利用交通機関別観光入込客数

利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の **77.4%**を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。（図4）

図4



⑤ 同行者別観光入込客数

同行者人数別に見ると、「2～3人」が最も多く全体の61.2%を占め、続いて「4～5人」が20.5%であった。

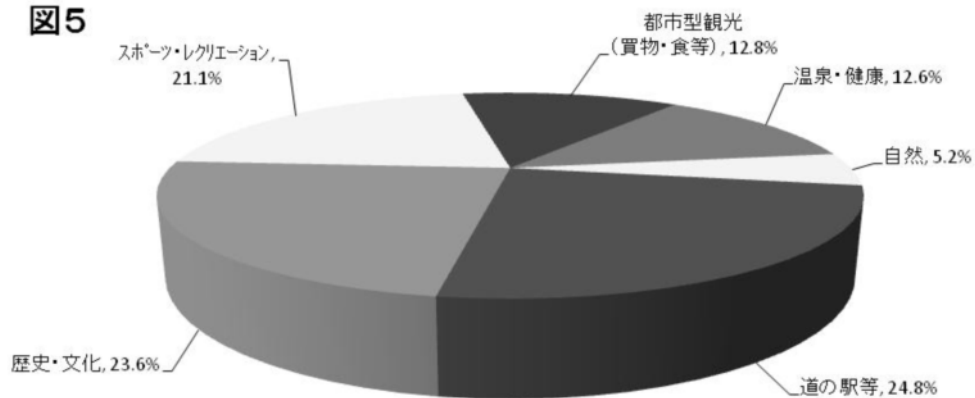
「団体旅行」（1人以上）の割合は全体の4.7%にとどまり、少人数による観光形態が主流となっている。

同行者別に見ると、「家族」が75.5%と最も多く、次いで「友人」16.6%と続く。

⑥ 観光地分類別観光入込客数

観光地分類別に見ると、「道の駅等」、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」の順に多く、以下、「都市型観光（買物・食等）」、「温泉・健康」、「自然」と続く。（図5）

図5



圏域別で見ると、岐阜圏域は「道の駅等」や「歴史・文化」、西濃圏域は「歴史・文化」や「スポーツ・レクリエーション」、中濃圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「道の駅等」、東濃圏域は「都市型観光（買物・食等）」や「道の駅等」、飛騨圏域は「歴史・文化」や「温泉・健康」が多い。

### ⑦ 観光地点毎の入込客数のトップ10

観光地点毎の入込客数の県内トップは、1位が「土岐プレミアム・アウトレット」(土岐市)で531万5千人、2位が「河川環境楽園(アクア・トトぎふ含む)」(各務原市)で410万8千人、3位が「高山地域」(高山市)で224万7千人となった。

(単位：万人)

順位	観光地点名	入込客数
1	土岐プレミアム・アウトレット	531.5
2	河川環境楽園(アクア・トトぎふ含む)	410.8
3	高山地域	224.7
4	千代保稲荷神社	197.8
5	伊奈波神社	152.0
6	千本松原・国営木曾三川公園	150.7
7	世界イベント村ぎふ	137.8
8	下呂温泉	117.1
9	白川郷合掌造り集落	116.7
10	岐阜公園	82.1

#### <参 考>

1人当たり平均訪問地点数(「観光地点入込客数(延べ人数)」を「観光入込客数(実人数)」で除したものは、1.8地点で、四半期別に見ると、1～3月が1.8地点、4～6月が1.8地点、7～9月が2.0地点、10～12月が1.6地点であった。

また、同一施設における1人当たり平均宿泊数(「宿泊客数(延べ人数)」を「宿泊客数(実人数)」で除したものは、1.3泊で、四半期別に見ると、1～3月が、1.2泊、4～6月が1.4泊、7～9月が1.3泊、10～12月が1.4泊であった。

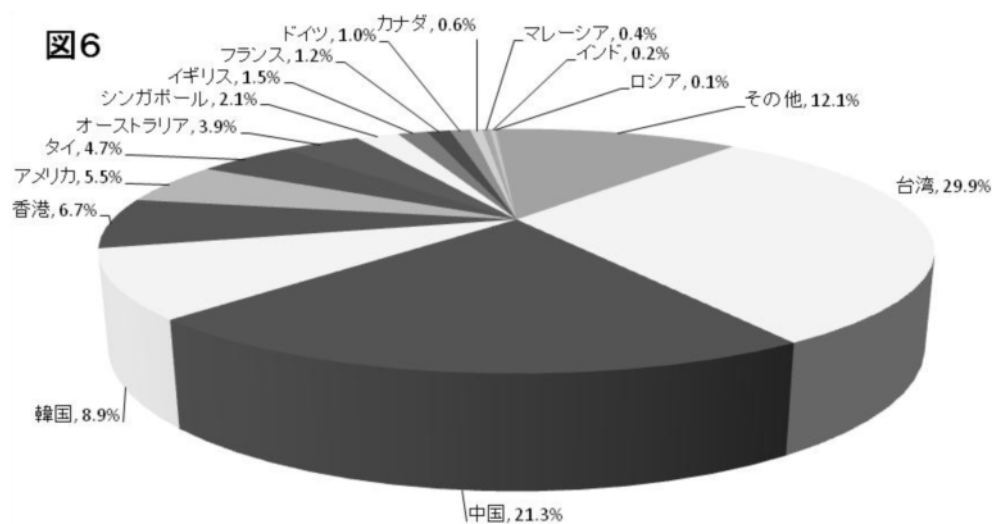
## (2) 外国人宿泊客数

外国人の宿泊客数（実人数）は9万8千人であった。

区 分	平成23年
外国人宿泊客数（実人数）	9万8千人

### <参 考>

国籍（出身地）別外国人宿泊客数は1位が台湾で29.9%、2位が中国で21.3%、3位が韓国で8.9%となった。（図6）



（注）出典：観光庁「宿泊旅行統計調査報告（平成23年1～12月）」『参考第1表』  
従業者数10人以上の施設に対する調査

### (3) 行祭事・イベント入込客数

平成23年の行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は878万8千人であった。

なお、東日本大震災の影響により、「長良川花火大会」（平成22年は65万人）や、「道三まつり」（平成22年は41万人）など、例年多くの入込客数を誇る行祭事・イベントが中止となった。

#### ○行祭事・イベント毎の入込客数のトップ10

行祭事・イベント毎の入込客数の県内トップは、1位が「ぎふ信長まつり」（岐阜市）で40万人、2位が「チューリップ祭」（海津市）で34万3千人、3位が「高山祭」（高山市）で32万5千人となった。

（単位：万人）

順位	行祭事・イベント名	入込客数
1	ぎふ信長まつり	40.0
2	チューリップ祭	34.3
3	高山祭	32.5
4	土岐美濃焼まつり	32.0
5	郡上おどり	26.6
6	濃尾大花火（羽島市・一宮市市民花火大会）	26.0
6	元気ハツラツ市	26.0
6	刃物まつり	26.0
9	日本ライン夏まつり納涼花火大会	25.0
10	各務原市桜まつり	23.2



## 2 各圏域の動向

<圏域別観光入込客数、行祭事・イベント入込客数> (単位：万人)

	日帰り客数	宿泊客数	観光入込客数(実人数、合計)	行祭事・イベント入込客数(延べ人数)
岐阜圏域	688.6	81.8	770.5	206.8
西濃圏域	727.8	29.8	757.6	234.0
中濃圏域	745.7	31.8	777.5	145.2
東濃圏域	760.8	40.0	800.8	220.9
飛騨圏域	246.8	236.2	482.9	71.9
合計	3,169.7	419.6	3,589.3	878.8

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

### ① 岐阜圏域

- ・観光入込客数は770万5千人で、このうち、日帰り客数は688万6千人、宿泊客数は81万8千人であった。行祭事・イベント入込客数(延べ人数)は206万8千人であった。
- ・観光地点別、行祭事・イベント別入込客数についてみると、東日本大震災の影響により「長良川花火大会」や「道三まつり」、「手力の火祭」などの主要な行祭事・イベントが中止となった。一方で、国宝薬師寺展が開催された「岐阜市歴史博物館」や、前年は大雨の中での開催で来場者が大幅減少したことと平成23年は近隣の花火が中止となったことが影響した「日本ライン夏まつり納涼花火大会」では例年より増加した。

### ② 西濃圏域

- ・観光入込客数は757万6千人で、このうち、日帰り客数は727万8千人、宿泊客数は29万8千人であった。行祭事・イベント入込客数(延べ人数)は234万人であった。
- ・観光地点別、行祭事・イベント別の入込客数についてみると、東日本大震災の影響により「大垣花火大会」や、「谷汲さくらまつり」、「池田サクラまつり」が中止となった。また、台風被害により「伊吹山ドライブウェイ」が一定期間営業休止となり減少した。一方で、関ヶ原東西武将隊の結成と武将隊を中心としたイベント等の積極的な開催により「関ヶ原合戦古戦場」で増加した。

### ③ 中濃圏域

- ・観光入込客数は777万5千人で、このうち、日帰り客数は745万7千人、宿泊客数は31万8千人であった。行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は145万2千人であった。
- ・観光地点別、行祭事・イベント別の入込客数についてみると、東日本大震災の影響により「関まつり」や「美濃まつり・さくらまつり」、「ツアーオブジャパン 美濃ステージ」、「めいほう高原音楽祭」などの行祭事・イベントが中止となった。また、震災の影響により団体客が減少した「平成記念公園日本昭和村」や、「花フェスタ記念公園」などでも減少した。一方で、前年は雨の影響で減少した「美濃和紙あかりアート展」では天気に恵まれ増加した。また前年9月のオープン以来好調な「道の駅可児ッテ」でも大幅に増加した。

### ④ 東濃圏域

- ・観光入込客数は800万8千人で、このうち、日帰り客数は760万8千人、宿泊客数は40万人であった。行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は220万9千人であった。
- ・観光地点別、行祭事・イベント別の入込客数についてみると、改修工事の影響により減少した「虎溪山永保寺」や、台風の影響による土砂災害で主要道路が通行止めとなった「奥矢作湖」で減少した。一方、9～10月に『国際陶磁器フェスティバル美濃』が開催されたことにより「セラミックパークMINO」、「現代陶芸美術館」で増加した。また、前年に引き続き観光地点毎の入込客数県内トップとなった「土岐プレミアム・アウトレット」がPR効果により増加したほか、7月に「恵那銀の森」がオープンし純増した。

### ⑤ 飛騨圏域

- ・観光入込客数は482万9千人で、このうち、日帰り客数は246万8千人、宿泊客数は236万2千人であった。行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は71万9千人であった。
- ・観光地点別、行祭事・イベント別の入込客数についてみると、東日本大震災の影響により「古川祭」が中止となったほか、「高山地域」や「白川郷合掌造り集落」など外国人観光客も多い主要観光地点において減少した。一方で、「下呂温泉」は国内での誘客キャンペーン等が奏功し前年並みとなった。

### 3 観光消費額

平成23年の観光消費額の総額は2,372億31百万円で、うち日帰り客分は1,240億64百万円、宿泊客分は1,131億67百万円であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,914円、宿泊客は26,972円であった。

区 分	観光消費額
全 体	2,372億31百万円
日帰り	1,240億64百万円
宿 泊	1,131億67百万円

### 4 経済波及効果（試算）

平成23年の生産誘発額は3,622億61百万円、就業誘発効果は34,780人となった。

<参考>

可児市の製造品出荷額等 3,814 億 8 百万円（H22 県工業統計調査）

※県全体（4兆8,275億25百万円）の7.9%

本巣市の人口 34,960 人（H24.7.1 推計人口）

※県人口（2,065,861 人）の1.7%

## < 参 考 >

### 調査の概要

本調査は、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」(平成21年12月)に基づき、平成23年1月から実施したものである。

なお、それに伴い、調査の名称を「岐阜県観光レクリエーション動態調査」から「岐阜県観光入込客統計調査」に変更した。

### 1. 調査期間

平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

### 2. 調査対象観光地点等

#### 観光地点の定義

- ・非日常利用が多いと判断される地点。
- ・観光入込客数が適切に把握できる地点。
- ・前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である地点。

#### 観光地点等の分類

観光地点等の分類は以下の区分による。

観光地点	
自然	山岳、高原、湖沼、河川、海岸、海中、島、その他自然(エコツーリズム、グリーンツーリズム等)
歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
温泉・健康	温泉地、その他温泉・健康
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリーナ・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
都市型観光 - 買物・食等 -	商業施設、地区・商店街、食・グルメ、その他都市型観光 - 買物・食等 - (農水産品の直売所、物産館等)
道の駅等	他に分類されない観光地点(道の駅、パーキングエリア等)
行祭事・イベント	行・祭事、花見、初詣、花火大会、郷土芸能、地域風俗、博覧会、コンサート、スポーツ観戦、映画祭、コンベンション・国際会議、他に分類されない行祭事・イベント

### 3. 調査プロセス

#### (1) 観光地点等入込客数調査

統計の基礎となる観光地点等ごとの入込客数（延べ人数）を把握する。

#### (2) 観光地点パラメータ調査

県内の15観光地点を訪れた観光客を対象に調査を行い、属性別の構成比、平均訪問地点数、平均消費額単価などのパラメータを算出する。

#### (3) 観光入込客数（実人数）・観光消費額単価・観光消費額の推計

上記(1)(2)及び観光庁より提供される以下のデータを用いて推計する。

- ・観光目的別・居住地別の宿泊観光入込客数
- ・ビジネス目的・県外の日帰り観光入込客数
- ・観光目的別・宿泊/日帰り別の訪日外国人の観光消費額単価